

校長室だより

# 共学共高

第  
29  
号

令和4年9月13日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

## 白梅祭～輝く生徒たち～

暑さも和らぎつつある9月10日(土)・11日(日)の2日間にわたって、本校の文化祭である「第59回白梅祭」が開催された。コロナ禍での開催ではあったが、昨年とは異なり、2日目は中学生とその保護者、在校生保護者に公開した。可能な限り密を避けるために、午前中か午後のいずれかで御来校いただくと共に、1・2年生の在校生保護者は各家庭1名に限定して御来校いただいた。半日ではとてもすべてのクラスや発表を御覧いただくことは不可能である。我慢をしていただくこととなり、申し訳ありませんでした。

私も1日半ですべてを観ることはできない。昨年同様に、準備日に行われる発表団体のリハーサルをすべて観させていただいた。軽音楽部は、機材の位置取りや、アンプの音量などをチェックして、複数バンドがそれぞれ一部の演奏を確認していた。それぞれ個性があった思わず応援したくなる演奏であったが、特に最後に登場したバンドは、ボーカルの声量・音程、楽器の演奏技術も高いように感じられた。



軽音楽部



ダンス部

ダンス部は、部員数も増えたように感じるし、さらにバージョンアップしたパフォーマンスを披露していた。また、各ジャンルで個性あふれる踊りを踊っていた。セクシー系のグループでは、司会の生徒が「普段の私たちとは全く違う様子の踊りを御覧ください。」とアナウンスし、思わず笑みがこぼれる。全員が一堂に会すると、これもまた迫力があり、見応えのある踊りであった。

書道部のパフォーマンスも健在である。昨年よりも書道ガールズの人数がかなり増えて

いた。放課後の書道室で床に敷いた新聞紙に練習する姿を目にしていたが、その成果が見事に表れていた。書かれたメッセージも私たちが大変励まされるものであった。



書道部



バトン部

バトン部は、相変わらず華やかである。独特のリズムやステップ、バトンワークがあって、思わず応援したくなる。バトンを空中に軽く投げて、体を回転させて背中で取る、これはなかなか難しいと思うが、ミスがなかったのに感心した。これで引退する3年生だけのパフォーマンスも華麗で訴えるものがあった。

演劇部は、キャストが個性豊かで、ストーリー展開も面白い。ベテラン・スパイと新米スパイ、それに警察官、ナイフを持った誘拐犯、女子高生らがからむやりとりがテンポよくなされていく。今回のキャストも部内のオーディションを経て選ばれたのだろうか。すべて通して観たい、という思いに駆られた。



演劇部



吹奏楽部

この日の最後は、吹奏楽部。リーダーの指示で演奏終了後の「はけ」の練習が冒頭に行われた。お手伝いの3年生も多く参加して、一つ一つ確認されていた。演奏は、相変わらず素敵である。定期的に聴いていると、これが東京都を代表する全国レベルの演奏なのだ、ということをお忘れかけてしまう。素晴らしい演奏にいつも励まされる。今回の演奏は、「魔女の

宅急便」と「YMCA」の演奏であった。西城秀樹さん役は、英語科のS先生。こちらも熱演であった。

翌日以降に、箏曲部と合唱部の演奏を観た。箏曲部は、浴衣を着ての演奏だが、1年生も含めてしっかりとした演奏をしていた。私は素人だが、決してやさしい曲ではないのではないかと感じた。日本の伝統文化を継承して行ってほしいものだ。合唱部は、夏に開催されたNコンで披露した「鋏（はさみ）」の他に「リメンバー・ミー」を歌った。マスクを着用しての合唱であったが、情感あふれる演奏で、ハーモニーも奇麗だった。

各クラスの出し物は2日間にわたって観た。各教室での滞在時間が一定程度あるので、計画通りには観て回ることができない。26クラス中、19クラスを初日に、7クラスを2日目に訪れた。いくつか印象に残った出し物を紹介したい。

3年5組は、創作演劇「アーシャの国」に取り組んだ。脚本はOさんが書いたという。200年前のインドにおいて、国を守るインド軍と占領するイギリス軍との戦いを通して、希望を語るストーリーである。アナウンス、効果音、照明、場面展開を上手に使って、役者たちも熱演していた。演劇はクラスの総合力が問われる出し物である。それ故に、文化的なレベルは高くなり、困難さも伴うはずである。彼女たちの前向きな気持ちや一体感が伝わってきた。アユーシ（Fさん）、カードゲームの時に私を指名してくれてありがとう。

2年9組の「CASINO」はよく考えられていて、多くのお客様に喜んでいただけたのではないと思う。特に、先生たちに演じてもらった「人間競馬」は、なかなかの力作である。私もオッズ5倍の「モリモトテイオー」に金貨2枚を賭けて、10枚にすることができた。

3年4組の「フライングシナイダイナソー」は、二人乗りの乗り物に乗って、ジュラシックパークのような教室をシューティングやストラックアウトなどのゲームをしながら探検していくものである。なかなかの人気でいつも行列が絶えなかった。私は1年生のMさんと一緒に乗って探検した。Mさん、ありがとう。



アーシャの国



フライングシナイダイナソー

昨年はなかった企画として今年特徴的だったのは、3年7組の「時すでにお寿司」と1年1組の「ティータイムへようこそ」である。お寿司の方は、教室に中心から4方向に分か

れた腕が出ていて、腕の先端に一人ずつ座り、高速で回転するものだ。いわば、人間回転寿司か。かなりの速さなので、しっかりとつかまっていけないといけない。ティータイムの方は、教室内にコーヒーカップが2つあり、それぞれに2名乗車でき、こちらも高速で回転するものだ。いずれも乗り物酔いする人は要注意だ。

涼しくなることができる出し物としては、1年5組の「ワタシの家」、そして1年4組の「冥土喫茶ホワイトクローバー」だ。いずれもいわゆる「お化け屋敷系」の出し物である。女子高生や女子中学生の「キャー」とう声途切れることはなかった。私は「キャー」とは言えないので、「ウォー」と叫んだ。スタッフのみなさん、気合を入れてくれてありがとう。

その他にも、魔法の国、映像上映、縁日など、さまざまなクラスの取組があった。漫画研究同好会、児童文化部、茶道部、華道部、写真部、美術部、手芸部、国際文化部、文芸部、書道選択作品、生徒会企画「平和の芽を育てませんか」、SFP有志企画「Fair Trade」、家庭科展示、そして学年企画などもあり、それぞれの場所で生徒たちの生き生きとした作品や姿をみることができた。



ワタシの家



美術部

学校には、さまざまな文化があり、様々な生徒たちがそこに関わっている。クラスや部活動の企画で忙しかった生徒たちもいるだろうが、いろいろと観て回った生徒たちもいる。お互いの文化に触れ、お互いに元気をももらった2日間となったのではないだろうか。中学生とその保護者の皆様、在校生保護者の皆様に御覧いただけたことも彼女たちの励みになったことだろう。「白梅祭を心から楽しめた」、「やり遂げた」、そうした思いや成就感を胸に、自分たちの力を信じて、明日以降の学校生活により前向きに取り組んでくれることを期待したい。本来の学校の姿を少しずつ取り戻しつつあることを嬉しく思う。



3 学年企画



1 学年企画



もぐらたたき



スペース・シューティング

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)